

特集 2 2021年大学院農学研究科は新専攻になりました



副学部長

塩野 義人

「はじめに」
農学研究科では、令和3年4月に、これまでの3専攻を改組し、新たに「農学専攻」の1専攻に再編し、幅広い分野を網羅した3つの領域（生物生産学、生物資源学、生物環境学）を設置しました。旧3専攻を統合することでより、さまざまな学問分野に対応できる専門性と総合的な応用力を兼ね備えた人材育成を目的とした新しい教育システムを構築することができます。今後は、新しく設置した領域を基盤にし、生物の多様な機

能を理解し、グローバルな視点から、食料や農業生産、環境保全を担うことができる人材を養成します。また、これらの3領域を横断的、複合的に捉え、今後の社会で活躍できる農学系の高度な知識的能力を持ち、国際的に通用する人材の育成にも取り組んでいます。農学研究科は、その創設以来常に、学術研究の高度化と優れた研究者の育成を目指した研究と教育を行ってきましたが、今後も農学の役割を積極的に担っていくことが求められ、一層努力を重ねて行かなければならぬと考えております。ここでは、新しくなった新農学研究科をご紹介させていただきま

す。

旧専攻		令和3年度から	
専攻名	定員(人)	専攻名	定員(人)
生物生産学	12	生物生産学	32
生物資源学	14	生物資源学	
生物環境学	10	生物環境学	

図1. 旧専攻から、新専攻へ

【2】研究指導体制を

指導教員3名へ

1名の学生に対しても、主指導教員1名と副指導教員2名を配置する研究指導体制を採用しています。また、研究開始前に「研究計画書」を作成し、研究の実効性を促進させます。

◆ダブルデグリープログラム：

世界トップレベルの環境で研究活動を実施できる

山形大学とハノーヴァー大学に籍を置き、両大学の指導教員の指導のもと、両方の大学からそれぞれ学位（ダブルディグリー）を取得することができます。留学生

に貢献する次世代のリーダーとして活躍を期待しています。現

在、6名の学生が挑戦中です。

学中に培った国際的な人脈やスキル、タフな精神力によって、社会

に貢献する次世代のリーダーとして活躍を期待しています。現

在、6名の学生が挑戦中です。

キル、タフな精神力によって、社会

に貢献する次世代のリーダー